

園長だより

第八号二九年二月
竹鼻保育園
園長 川出昭順

先々回の「園長だより6号」に京都大学の鯨岡峻先生の文を載せましたが、今回も鯨岡先生の文を載せます。私園長が要らんことを言わなくても、この文に私の思いが語り尽くされております。仏教の精神を感じさせる文です。

子育ては楽しいばかりではありません

わが子の笑顔は可愛いし、寝顔は愛しい。日に日に成長する姿を見るのは心から楽しい。子どもが生まれてよかったです。しかし、子育ては明日の頑張りを支えてくれるのは確かです。



カルタ大会です。取れた喜びが伝わってきます。さくら2組のクラス便りからいただきました。

喜びをもたらしてくれるわけではありません。むずかる時、大泣きをする時、聞き分けてもらえない時、あるいは病気の時など、お母さんがイライラしたり、不安になったり、どうしたらよいかわからなくなったり。そんな時、「子どもなんか生まなきやよかつた」と思ったりすることは誰にでも起こることです。イライラが募って、つい手を挙げたくなる時もあるかもしれません。それも、誰にでも起こることです。

そのような照る日、曇る日がある中で、プラスの経験だけでなく負の心が働くマイナスの経験も、母が母らしくなっていく上には欠かせない経験なのです。こうして子育ての経験が積み重ねられて、子どもが小学校の高学年になる頃、お母さんはようやく母らしくなり、それまでの子育てを振り返って、「これまで一生懸命子育てをしてきたけれども、考えてみると、この子によって私が育てられたのかも知れませんね」と述懐することができるようになるのです。

「子どもによって育てられた」という言葉には、深い意味があることはいまでもありません。子育ては単に栄養を与え、清潔にし、健康を守るといふ子育て行為をするだけではありません。それらにはいつも子どもを愛する気持ち、子どもを守る気持ち、気がつかないうちに働いています。しかもその願わしい心の裏側では、不安や心配や思い通りにならないイライラや、様々な負の心も働いています。そういう喜怒哀楽の心を伴ったすべての経験が母を母として育てるのです。

世の中のことは何でも思い通りになるわけではありま

せん。その中で、心を落ち着けて子どもとともにしつかりした生活をしていこう、このように考えられるようになる場所に、母としての発達があり、それは子どもを育てることを通して身につけたものだから、先の述懐が生まれるのです。

わが子は将来育てる者になるのです

そのことを考えていますか？

さて、お母さんがお母さんらしくなるのには、子どもを育てる時間と経験が必要だ、そこにお母さんの発達が
あると述べてきました。今、お母さんが大変な思いをして
いるように、わが子もこの先30年もすれば、お母さん
と同じような思いをすることになるのです。今の子育て
をしながらお母さんが味わうプラス、マイナスの心の働
きは、実は子どもが保育園で友達や先生とのかかわりの
中で味わうプラス、マイナスの心の働きとよく似ていま
す。子どももまた、自分の思い通りにしたい気持ちと、
思い通りにゆかない現実とに挟まれて悩みながら、しか
し、何とか前を向いて生きていこうとしているのです。
お母さんが日々大変と暮らしているように、子ども
もも本当は日々大変と暮らしているのです。そのこ
とを考えると、お母さんには、単にできることが増える
ことが喜ばしい、早くいろいろなことをさせて発達を前
に押し進めて、という考え方から早く脱却して、わが子
がどんなプラス、マイナスの心から成長しているかに目
を向けていただきたいと思えます。

実際、身体が大きくなり、知能能力がしつかり身についたとしても、対人関係を潜り抜けていくための心の育ちがなければ、一人前になれませぬし、ましてや30年後に親になった時に、親らしく子育てに望む大人になれませぬ。今は学力、学力と目に見える力をつけることに国を挙げて奔走しているように見えますが、しかし、わが国の教育は、能力の高い人間はつくりだせても、一人前の心をもった人間をつくることには失敗しています。失敗する理由は、主には学校教育にあります。家庭の子育てや保育のあり方に、子どもの心を育てるといふ視点が十分ではないことにも理由があると私は考えています。

従来の発達の見方は子どものプラス、マイナスの心の育ちを視野に含むものではありませんでした。しかし、「子どもは育てられて育つ」という観点に立つと、心の育ちが大事なものとして浮上してくるはず。お母さんは子育てをする中で、「今になって親のありがたみかわかる」という思いになっていると思えますが、子どももいざ親になった時に、同じことをいうようになるでしょう。

子育てのマイナス経験がお母さん自身を育てるといふところがありませんが、子育てに限らず、人生のマイナス経験を人間を育てるといふことでしよう。マイナスをそのまま受け止めていくところに大きな成長があるのですね。